隔月誌（2020年9月発行）

株式会社かなえるリンク

かなえるレター

KANAERU LETTER

vol.45
2020



今号の表紙

「大切な時間」

かなえるリンク　検索

かなえるリハビリ訪問看護ステーション

〒550-0015
大阪府大阪市西区
南堀江1-16-15
名城ビル4階D号室

TEL 06-6531-3500
FAX 06-6531-3510

ご利用者数（2020/8/24 時点）

介護保険…	751名
医療保険…	362名
その他　…	6名
計	**1119**名
	（訪看スタッフ 90名）

かなえるリハビリ訪問看護ステーション住之江

〒559-0001
大阪府大阪市住之江区
粉浜3-15-9
コテジャルダン 203号室

TEL 06-4701-8554
FAX 06-4701-8556

ご利用者数（2020/8/24 時点）

介護保険…	98名
医療保険…	66名
その他　…	0名
計	**164**名
	（訪看スタッフ 13名）

かなえるリハビリ訪問看護ステーション岸和田

〒596-0044
大阪府岸和田市
西之内町9-6　2階

TEL 072-423-0567
FAX 072-423-0568

ご利用者数（2020/8/24 時点）

介護保険…	147名
医療保険…	203名
その他　…	2名
計	**352**名
	（訪看スタッフ 26名）

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都

〒604-8375
京都府京都市中京区
西ノ京池ノ内町19-11
御池KSビル202号室

TEL 075-803-0536
FAX 075-803-0537

ご利用者数（2020/8/24 時点）

介護保険…	175名
医療保険…	45名
その他　…	2名
計	**222**名
	（訪看スタッフ 21名）

— ご利用者とともに —



今ある「機能」を活かして「在宅生活」を送る

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都　言語聴覚士　中川

「嚥下障がい」とは

「嚥下（えんげ）」とは、口の中のものを飲み込み胃に送ることです。「嚥下障がい」とは、嚥下を上手くできない状態をいいます。脳卒中による「嚥下障がい」は、入院時で約半数の方が、半年後には約1割の方が後遺症として残ると言われています。私の担当する竹村さまは、17年前に脳梗塞を発症され、呂律のまわりにくさや嚥下機能の低下が残り、訪問リハビリサービスのご利用を開始されました。

身近に迫る危険「誤嚥性肺炎」とは

嚥下機能の低下により、上手く飲み込めないと気管への誤嚥を招いてしまいます。誤嚥によって口の中の細菌が気管や肺に入ってしまい、体力・抵抗力・免疫力の低下などにより、細菌を駆除することができずに細菌性の肺炎にかかる危険性があります。2017年の日本国内の死因で、肺炎は第3位であり、そのうち約4割が『誤嚥性肺炎』とされています。

竹村さまも以前、『誤嚥性肺炎』で入院されたことがあり、週に一度は必ず日々の生活を振り返っていただいています。訪問リハビリでは、口や喉の運動に加えて、体調に合わせた呼吸器官の運動や発声練習を行うほか、食材を用いて唾液をしっかりと飲み込むという練習を実施させていただいています。

また、『食事』を楽しめるように、食感を残すためにミキサーではなく包丁を使い飲み込みやすくしたり、風味を無くさないように、あえて「とろみ剤」を使用しないなど、ご家族と共に「食事を安全に楽しめる工夫」を考えさせていただいています。

一緒に過ごす時間に込められた想い

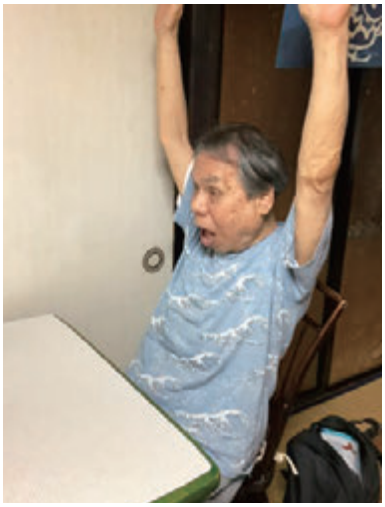
竹村さまは、息子さまが帰省されるのをいつも楽しみにされています。息子さまも竹村さまの体調をいつも気にかけておられるそうです。

帰省された際、ご家族揃ってお茶を戴くそうで、「多くの言葉を交わさなくても、こうして共に過ごす時間が互いの想いを伝えてくれるような気がします」と話してくれた竹村さまの言葉から息子さまを想う気持ちが伝わってきました。

日々、歳を重ねるにつれて、「食べる・飲む」への楽しみが深まる中、嚥下機能の低下があっても、『食事』の楽しみが続くように訪問リハビリを継続していただいています。「食べることは生きる力になる」そんな奥さまの想いもあり、食べる楽しみを失わず、「誤嚥性肺炎」の予防に努めておられます。

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都では、言語聴覚士が増員し5人体制となりました。「食べる・話す・聴く」は、生活において欠かせないものであり、少しでも有意義な生活が送れるように、サポートさせていただきたいと思っております。

（言語聴覚士　中川）



呼吸器官の運動練習の様子

▸ 2003	多発性脳梗塞発症
▸ 2013.5	誤嚥性肺炎発症
▸ 2016.2	訪問リハビリ開始

リハビリ 豆知識

マスク着用時の 聞き返されない会話術



言語聴覚士
湯浅 至美
ゆあさ よしみ

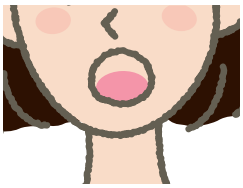
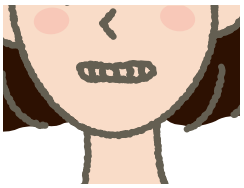
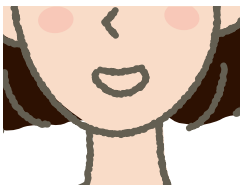
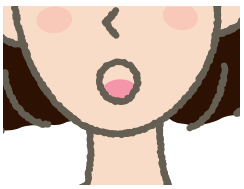
新型コロナウイルス感染症が流行して、早や9か月が経とうとしています。
感染対策としてマスクの着用が義務付けられ、人とのつながりにも影響を及ぼしています。
そんな時だからこそ大切なつながりを大事にしたい!
ちょっとした心がけで人との距離感が近づく、そんな会話術をご紹介いたします!!

①声の出し方

発声する前に息を吸い込んで、発声する際に息を吐き出しながら話しましょう!
これだけでも『**声量がUP**』して相手が聞き取りやすくなります!

②発音の仕方

母音である「**あ・い・う・え・お**」の口の形をしっかり意識して形作りましょう。
『**発音が明確**』になり、聞き取りやすくなります!

「あ」行の発音	「い」行の発音	「う」行の発音	「え」行の発音	「お」行の発音
				
顎を下げて 大きく口全体を開ける	口を横に引き 口角を上げる	口をとがらせ すぼめる	舌を引く	舌を下に下げ 口を縦に開ける

マスク着用で表情や口元からの情報が見えない分、声の出し方や発音の仕方で会話がスムーズになります!

ご利用者「投稿コーナー」

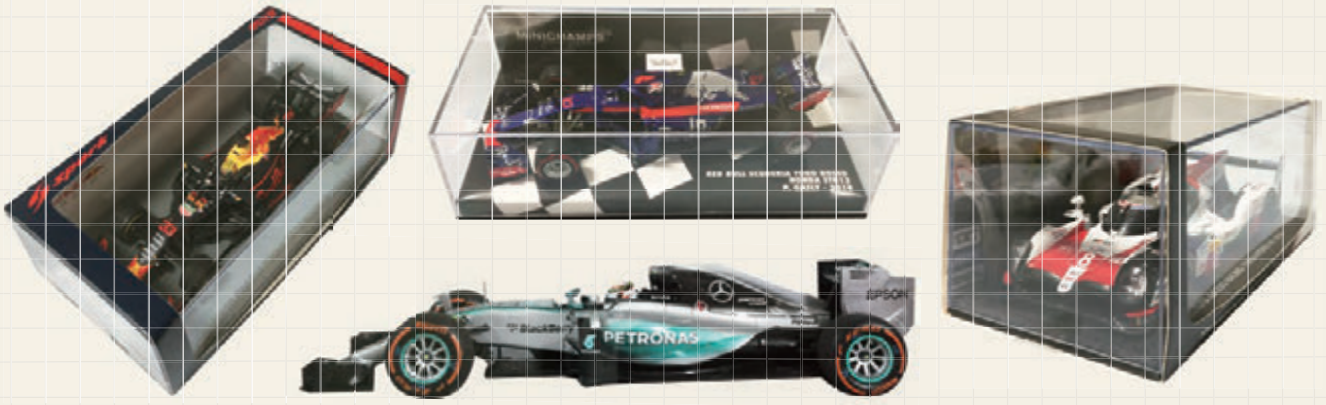


京都市 佐藤さま (男性)

作品 「F1(フォーミュラ1)」

佐藤さまは、モータースポーツのF1(フォーミュラ1)が大好きだそうです。
ドライバーに注目が当たるけれども、車を整備される大勢の裏方の方々も含めチームで戦うスポーツで、「そういう所が好きなんです」とおっしゃられていました。

担当: 作業療法士 麻生嶋



ご利用者からの”投稿募集”

あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか?詳細は郵送、FAX、メール、または訪問スタッフまでお問い合わせください。あなたの投稿をお待ちしています。